

秋輪ギク「立神」3月出しではCO₂成長点局所施用と密植栽培で増収・増益

「立神」の3月出しでは、CO₂成長点局所施用と密植栽培の併用により、収益性が向上

背景・目的

- ・低日照条件では、輪ギクの切り花品質が低下し、下位等級品や規格外品の増加で、売り上げが減少
- ・低温開花性が優れ、花が大きい県育成品種「立神(りゅうじん)」は葉がコンパクトで密植栽培に適応
- ・「立神」の3月出しでCO₂成長点局所施用と密植栽培を組み合わせた栽培技術確立で輪ギク生産の収益性を改善

成果の内容

- ・「立神」は、CO₂成長点局所施用を行うとL以上の割合が高まる
- ・「立神」は、CO₂成長点局所施用下では密植栽培(25%増)も可能



○両技術の併用で収益性が向上

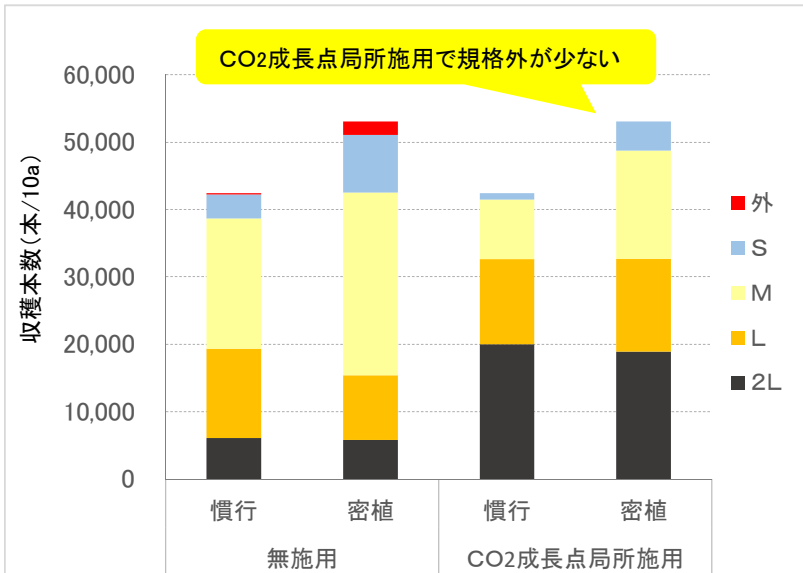


図1 CO₂成長点局所施用と密植が階級別本数に及ぼす影響
注)階級の基準(90cm切り花重): 2L≥70g>L≥60g>M≥45g>S≥30g>外



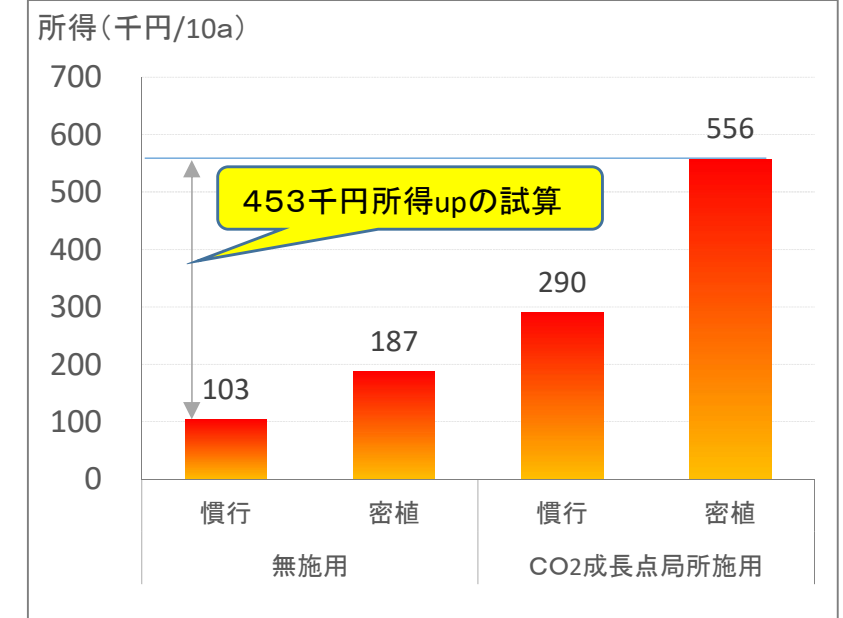
図2 CO₂成長点局所施用



図3 花が大きく、葉がコンパクトな「立神」

期待される効果

○冬期の輪ギク栽培での収益性がアップ



○輪ギク農家の経営が向上

○普及対象・範囲 県内施設輪ギク栽培農家

鹿児島県農業開発総合センター
果樹・花き部花き研究室